

これからの授業①

新学習指導要領が現在審議を重ね作成中です。その中で、これからの授業のイメージ図が示されているのでここで紹介します。

次期学習指導要領に向けた検討の基盤となる考え方
～あらゆる方策を活用し、三位一体で具現化～

①深い学びの実装
(Excellence)

生きて働く「確かな知識」の習得、
資質・能力育成の具体化・深化、
「好き」を育み「得意」を伸ばす、
情報活用能力の抜本的向上、
個別最適な学び・協働的な学び等

②多様性の包摂
(Equity)

調整授業時数制度、裁量的な時間、
個別の児童生徒に係る教育課程の仕
組み、デジタル学習基盤を活用した
学習環境デザイン、個別最適な学
び・協働的な学び等

③実現可能性の確保
(Feasibility)

授業時数の適正化・平準化
教科書の精選 構造化
裁量的な時間など様々な方策による教師・子供双方の「余白」の創出
カリキュラム・マネジメント等

学びをデザインする高度専門職としての教師 デジタル学習基盤をはじめとする基盤整備
「裁量的な時間」をはじめ柔軟な教育課程による余白 総合的な勤務環境整備

多様な子供たちの「深い学び」を確かなものに

多様な他者と協働しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた
自らの人生を舵取りすることができる民主的で持続可能な社会の創り手の育成

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
(興味・関心)



当事者意識をもって、自分の意見を形成し、
対話と合意ができる

【各教科等での検討イメージ】

課題設定
の充実

個人探究 (マイ探究)
グループ探究 (テーマ探究)

総合

生きて働く「確かな知識」の習得

興味・関心が広がる
教材・学習方法の選択を促進

自分の意見を表現する活動の充実

探究的な要素をもつ学習活動の充実

家庭学習の内容を自律的に決められ
るような段階的指導
(家庭学習ははじめ学習習慣の確立を含む)

各教科等

児童生徒主体のル
ール形成や学校生
活改善の、行事の
創造等の明確化
(みんなが学びやすい
ルールや環境の構築を
含む)

納得解を形成しよ
うとすることの重
要性の明文化
(安易な多数決の回避
や少数意見の吟味)

特別活動

考え、議論
する道徳の
徹底

(主体的な判
断の重要性、
知・徳・体の
調和のとれた
発達に向けた
道徳的価値の
対立を乗り越
える必要性や
道徳的実践の
協調)

道徳

言葉を用いて思考を深めていく指導

他者と関わり協同する力の育成

多様な子供を誰一人取り
残さない視点としての個
別最適な学びと協働的な
学びの一体的充実

科学的知見も生かした効果
的な指導計画・授業方法・
児童生徒の学習方略の指導

障害や認知特性等
多様な実態を踏まえた調整
(教科等、家庭学習含む)

全ての活動の基
盤としての心理
的安全性の確保

好き・得意をベースとした
主体的な進路選択の促進

高
中
小
幼

まなび野洲チャレンジ！ 47

今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは、最下段に載せています。

野洲市は、6つの小学区で構成されています。
その中で、隣接している小学区が最も多い数はいくつでしょうか。
また、その小学区はどこでしょうか。

- ①2つ ②3つ ③4つ ④5つ



おすすめの一冊



『個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実』のためのサポートマガジン「みるみる」』

文部科学省

「令和の日本型学校教育の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の理念が提唱されました。

これは、GIGA スクール構想の開始など教育環境の大きな改善を背景として、現行学習指導要領でも重要性が示されている「個に応じた指導」を学習者の視点で捉えた「個別最適な学び」の実現を図りつつ、「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、「協働的な学び」と一体的な充実を図ることとしたものです。

この方向性は、誰一人取り残すことなく全ての子供たちの可能性を引き出していくうえで大変重要であり、多くの先生から賛同を得ている一方、「実際に無理なのではないか」「具体的にどのように取り組んでいけば良いか分からない」「学習指導要領との関係性が分からない」など、ハードルを感じている方も多く、文部科学省に分かりやすい発信を求める声も寄せられました。現場の先生方にとって、分かりやすく使いやすい参考となるものを届けたいと考え、このサポートマガジン『みるみる』を作成しました。

誰一人取り残すことなく全ての子供たちの可能性を引き出していく「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた授業づくりには、授業を行う先生方の

- ・子供たちの多様な特性を踏まえ、一人一人の学びの状況を細やかに“みる”目
- ・これまでの実践を問い直し、これからの時代に求められる授業を俯瞰的に“みる”目

がこれまで以上に大切になると考えます。「子供を“みる”目」「授業を“みる”目」。こうした思いから本マガジンは『みるみる』と名付けました。

『みるみる』には、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けて取り組み、たゆまぬ授業改善を目指す全国の先生方に子供を“みる”目」「授業を“みる”目」を豊かにするヒントを提供し、授業改善に向けたそれぞれの挑戦を応援したいという願いが込められています。

「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」に向けた取り組み方には、子供の様子や教師の得意な授業スタイル等に応じて無限に考えられますし、これが正解といったことを決められるものではありません。今回のマガジンでは、手法を網羅的に整理したり、そのまま模倣すべき実践事例を示したりするのではなく、授業をつくる上での骨格となる「考え方」を示した上で、そうした考え方に沿った授業づくりを通じて「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」の実現に挑戦している途上の学校の実践を紹介することとしています。

このマガジンが、全国で奮闘されている多くの先生方の手に届き、一人でも多くの子どもたちにとっての資質・能力の育成につながることを心から期待したいと思います。

文科省初等中等教育局教育課程科教育課程企画室より